

関係住民の御意見とその回答



北陸地方整備局

金沢  事務所

手取川の今後30年間の整備内容等を示す、手取川水系河川整備計画の策定にあたっては、流域住民の方々から、広く御意見を頂き、計画に反映することとしております。

〔意見聴取に関する経緯〕

手取川水系河川整備計画(素案)を事務所ホームページにて掲載し、公表(平成17年8月～平成18年4月)

市役所等に31箇所の閲覧場所(情報コーナー)を設置

平成17年9月に住民説明会を実施(計7箇所で145名参加)

皆様からは、はがき・ホームページ・情報コーナー(市役所、図書館、公民館等)等により、約200件の御意見が寄せられました。

ここでは、皆様からの主な御意見を集約させて頂き、それに対する手取川水系河川整備計画上の基本的な考え方を整理させて頂きました。

手取川水系河川整備計画の作成に当たっては、学識経験者からなる委員会の他、流域住民の方々から以下に示すような御意見を頂いています。
(意見聴取等については第7回流域委員会資料を参照下さい)

平成18年5月1日現在

	御 意 見(代表的なもの)
洪水による災害の防止又は軽減に関するもの	
基本高水・情報伝達について	手取川の基本高水流量を6000m ³ /s、計画高水流量を5000m ³ /sとしているが本当に大丈夫か。洪水が発生した場合の地域住民への情報伝達の手段について充実させてほしい。等
伐採・河床掘削について	河道内の土砂の堆積や樹木は、洪水時に流下断面の不足等の影響はないのか。また、影響があるとしたら、どのように対応しているのか。等
支川熊田川・西川について	支川熊田川、西川と手取川本川との合流点処理を実施してほしい。等
堤防の強化について	堤防をもっと強化したほうが良いのではないかと。等
霞堤について	霞堤の保全と、霞堤周辺の新たな自然環境整備をしてほしい。等
手取川ダムについて	手取川ダムの寿命や堆砂対策について教えてほしい。等
内水対策について	手取川本川の洪水時に支川への内水被害が想定されるが、その軽減対策を教えてほしい。等
河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関するもの	
正常流量について	手取川の流水の正常な機能を満足する目標流量(正常流量)を確保してほしい。等
地下水について	手取川扇状地域の豊富な地下水を利用した企業活動のため、地域住民が利用する地下水が枯渇することが考えられるが、地下水の使用規制はどのように考えているのか教えてほしい。等
水質について	手取川の水をきれいにしてほしい。濁りをなくしてほしい。等
河川環境の整備と保全に関するもの	
環境を活かした川づくりについて	周辺の自然環境や生物の生息環境に配慮した河川工事をしてほしい。等
河川敷等の利用について	自然に優しく、人が利用しやすい河川空間を整備してほしい。等

主な御意見を集約させて頂いています。

御意見に対する整備計画上の基本的な考え方

回 答

洪水による災害の防止又は軽減に関するもの

基本高水の妥当性・情報伝達の方法等について

○手取川の基本高水流量は、73年間の降雨観測実績を基に、確率統計処理を行い、100年に1回程度発生する降雨規模を想定し、その降雨により生じる最大流量を鶴来地点で6000m³/sとしています。また上流の手取川ダム・大日川ダムによる洪水調節効果を考慮し、下流の国の河川管理区間では堤防等の工事を実施する際の目標となる計画高水流量を5000m³/sとしています。検討に当たっては、過去の降雨の継続時間や、雨が降ってから川に流れ出る時間等の実績を考慮して、現実的な妥当性を持って計画しています。

○計画規模を上回る洪水が発生した場合に備えて、流域市町と連携し、洪水時の氾濫域の浸水情報(浸水区域、浸水深等)の発信 避難場所を記載した水害ハザードマップの作成 水位や降雨情報、水位予測情報の発信 CCTVを活用した現地画像の配信等のソフト対策の整備や関係機関、沿川住民に確実にかつ速やかに防災情報が伝達される体制づくりを整備・促進します。

伐採・河道掘削の対応について

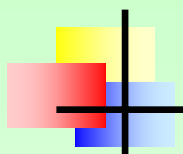
洪水を安全に流下させるために必要な流下断面が不足したり、流れの阻害、偏りを発生させる等、治水上影響のある箇所について、河床の掘削や樹木の伐採等、環境の専門家等のご意見を伺いながら適切な維持管理に努めていきます。

支川熊田川・西川の対応について

支川熊田川、西川と手取川本川との合流点については、手取川本川の洪水時の水位上昇に伴い、支川への逆流が発生するため、水門が必要だと考えています。実施に当たっては熊田川、西川の河川管理者である石川県と連携を図りながら、事業を進めていきます。

御意見に対する整備計画上の基本的な考え方

	回 答
洪水による災害の防止又は軽減に関するもの	
堤防の強化について	手取川は日本を代表する急流河川で、洪水時は流れが早く、強大なエネルギーによって堤防や河川敷が大きく洗掘される危険性があります。このため、堤防の前面に盛土による腹付を行い堤防の補強等を図り、これらの危険性に対応していきます。
霞堤の活用について	手取川は先人達の治水事業の取り組みにより、現在の滞筋が固定化されてきた歴史があります。霞堤の適切な機能保全是、きたる洪水時の氾濫の備えとして重要な取り組みの一つです。また、霞堤周辺の河川空間の利用に際しては、関係機関等と十分協議のうえ、検討を進めて行きたいと考えています。
手取川ダム堆砂対策について	手取川ダムは土砂堆砂容量を100年間分として計画しています。ダムの寿命が100年間と言われるのはそのためです。しかし、ダムへの流入土砂量の推移や、流入する土砂を浚渫等により適正に管理した場合は、さらに長い期間、効果を発揮します。 このため、手取川ダムにおいては流入する土砂量を適切に把握するとともに、貯水池周辺の地すべりを含む貯水池の堆砂傾向や堆砂形状等の特性を把握するための調査、研究を実施し、効果的な堆砂対策を検討・実施します。
支川の内水対策について	洪水時における手取川本川の水位上昇に伴う支川等への逆流防止を図るため、手取川本川に係る水門等のゲートは必要に応じ操作する必要があります。洪水時には、支川を管理する石川県や関係自治体等と情報伝達等の連携を図り、適切に対応します。併せて国土交通省においては内水氾濫の被害軽減を図るため、自治体の要請により排水ポンプ車を派遣・支援する体制づくりを進めています。



御意見に対する整備計画上の基本的な考え方

回 答

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関するもの

正常流量の確保について

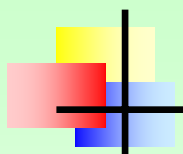
扇状地を流下する手取川においては、河川の流水の正常な機能を維持するための必要な流量(正常流量)は、河川水の伏没、還元機構が明確でなく、設定できていません。渇水時における流況や河川環境の状況を引き続き調査し、正常流量の設定に努めます。正常流量が定まった以降は、河川水を利用する関係機関と連携しながら、その水量の確保に努めます。

地下水の使用規制について

手取川扇状地は、豊かな地下水を利用した企業活動により、石川県の工業生産額の半分以上を占め、県の産業基盤を形成しています。地下水の利用については、石川県及び各市町において周辺環境への影響等を考慮し、揚水量を規制していますが、国土交通省としても手取川の河川水と地下水との関係について、石川県や関係機関と連携を図りながら、調査・研究を実施していきます。

良好な水質の確保について

水質を評価する代表的な評価項目であるBOD(生物化学的酸素要求量)によると、手取川は環境基準値を満足しており現状は良好な状況にあります。洪水時に流域の土砂を流下させる川の自然の営みによる手取川の濁水現象については、原因の特定がなされていません。今後は、濁水現象の発生要因の究明と対策工の検討に関する調査研究を進めます。



御意見に対する整備計画上の基本的な考え方

回 答	
河川環境の整備と保全に関するもの	
環境を活かした川づくりについて	手取川では、周辺の自然環境と調和を図るために、自然素材である玉石等の活用や自然植生の生育、瀬や淵の形成にも配慮した「多自然型川づくり」に積極的に取り組んでいます。工事を行った後にも、その効果や影響を確かめながら、よりよい工法となるよう技術開発の研究も進めています。 更に手取川古来の風景で、県名の由来ともなっている「石の河原」の復元に向けて、専門家の意見を聞きながら、取り組んでいくこととしています。
河川敷等の利用について	手取川流域は、上・中流域では国立・県立自然公園、下流域は雄大な扇状地地形を形成し、川沿いからは霊峰白山を望める等、自然環境に恵まれた地域です。扇状地部の高水敷や電堤部ではスポーツ広場等、年間を通じ、多くの人々に利用されており、河道内には貴重な動植物が数多く生息しています。 今後とも、良好な河川環境の保全に努めるとともに、自然環境や河川の利用状況等について定期的に調査を実施し、川沿いの住民の交流、学習、自然とのふれあいの場等との調和のとれた河川敷等の整備に関係機関や住民と一体となって取り組むこととしています。特に、熊田川・西川合流点の整備にあたっては、北前船ゆかりの歴史的な場所であることを踏まえ、周辺の公園整備とあわせ周辺環境と調和のとれた整備を検討していきます。